

令和6年度

総合的な学習の時間教育研究集録

第22集

2025.2

愛媛県教育研究協議会
総合的な学習の時間研究委員会

は じ め に

現在の学習指導要領改訂にあたっては、いくつかのキーワードが示されました。「社会に開かれた教育課程」「育成を目指す資質・能力」「アクティブ・ラーニングの視点による授業改善」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」などです。そのどれもが総合的な学習の時間と深く関係しています。各学校では、この学習指導要領改訂を受け、「探究のプロセス」を明確にしながら、総合的な学習の時間においては、人、もの、ことと深く関わりながら、自己の生き方を考える学習の在り方について、改善をしつつ実践に努めていただいていることと思います。

さて、本研究委員会では、昨年度に引き続き、「よりよく生きる力を育む総合的な学習の時間の研究－探究的な見方・考え方を働かせ、主体的・協働的で深い学びを求めて－」の研究主題の下、研究を進めてまいりました。8月6日には、第22回愛媛県総合的な学習の時間教育研究会を、東温市川内公民館で開催しましたところ、多数の先生方に参加していただきました。誠にありがとうございました。

当日の研修では、愛南町立家串小学校 飯田 千歳 先生に『探究的な見方・考え方を働かせる「しおご」の学習を目指して』と題して、単元の開発と指導方法の工夫についてご発表いただきました。今治市立大島中学校 山田 ゆかり 先生には、「ふるさとを愛する心を育む総合的な学習の時間」と題して、社会福祉協議会との強いつながりによる取組についてご発表いただきました。両校ともすばらしい実践をされていて感動いたしました。この2校の実践につきましては、本研究集録に掲載させていただきましたので御覧いただき、参考になさってください。

また、文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官、国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 長田 徹 先生には、お忙しい中御来県いただき、「学習指導要領に込められた願いとは」という演題で講演をしていただきました。理論と実践を結び付けながら全国の先進的な取組をたくさん紹介していただきました。それに加えて、実際に長田先生が公開した総合的な学習の時間の授業を体験するなど、大変充実した研修会となりました。参加した先生方からは、「実践発表も講演も大変参考になった」「総合で何をすべきなのか明確になった」「近年拝聴した講演の中で最も勉強になった」等の感想をいただきました。

今後も、これまでの実践の成果を生かしながら、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、「よりよく生きる力」を身に付けて、これからの時代をたくましく生き抜く子どもの育成を目指して、授業改善や実践研究に努めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、本研究集録発刊に当たり、お世話をいただいた各支部委員長の先生方、御執筆いただいた先生方、そして、様々な御指導や御助言を賜りました各方面の先生方に心より感謝申し上げます。今後とも、子どもたちの豊かな学びが実現できますよう、御尽力・御指導をよろしくお願い申し上げます。

令和7年2月

愛媛県教育研究協議会 総合的な学習の時間研究委員会

委員長 佐藤 郁子

目 次

はじめに	総合的な学習の時間研究委員会委員長 佐藤 郁子	
I 令和6年度総合的な学習の時間研究計画		1
II 研究主題・研究のねらいの解説		
	総合的な学習の時間研究委員会研究部長 吉岡 舞	3
III 実践発表		
実践発表1 小学校実践研究発表		
「探究的な見方・考え方を働かせる「しおご学習」を目指して ー单元開発と指導方法の工夫ー」	愛南町立大串小学校 飯田 千歳	7
実践発表2 中学校実践研究発表		
「ふるさとを愛する心を育む総合的な学習の時間 ーふだんのくらしの幸せー」	今治市立大島中学校 山田 ゆかり	12
IV 講演要旨		
「学習指導要領に込められた願いとは」	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 長田 徹	20
各支部委員長・委員会役員一覧		21
編集後記		

I 令和6年度総合的な学習の時間研究計画
(小・中学校共通)

総合的な学習の時間

I 研究主題

「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間の研究
ー探究的な見方・考え方を働かせ、主体的・協働的で深い学びを求めてー

II 研究のねらい

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

この目標を達成するためには、総合的な学習の時間において各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものにするとともに、各教科等を超えた学習の基盤となる資質・能力を育成するよう、探究的な学習の過程を一層重視することが大切である。

本研究主題の「よりよく生きる力」とは、「主体的に物事にに関わり、他者と協働して課題の解決に取り組み、自己の生き方を考え、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力」のことであり、これまでの「生きる力」を改めて捉え直したものと考える。したがって、本研究のねらいは、これまでの実践に立脚しつつ、学習指導要領の趣旨を踏まえ、探究的な見方や考え方を働かせ、主体的・協働的で深い学びを通して「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間を創造することにある。

III 研究の視点

(【 】は愛教研「主体的・対話的で深い学びに向かう授業」モデルと主に対応するものを示す。)

1 探究的な見方・考え方を働かせるカリキュラム・マネジメントの在り方

- (1) 育成を目指す資質・能力の明確化
- (2) 目標を実現するにふさわしい探究課題の在り方【B・C・D】
- (3) 各教科等における見方・考え方を総合的に活用して課題を探究する学習過程【E・F】

2 主体的・協働的で深い学びを実現する指導の在り方

- (1) 探究的な学習の過程を質的に高める工夫【N】
- (2) 他者と協働して課題を解決しようとする学習指導の工夫【G・H・I・J】
- (3) ICT機器や「考えるための技法」の効果的な活用【G・I・N・O】

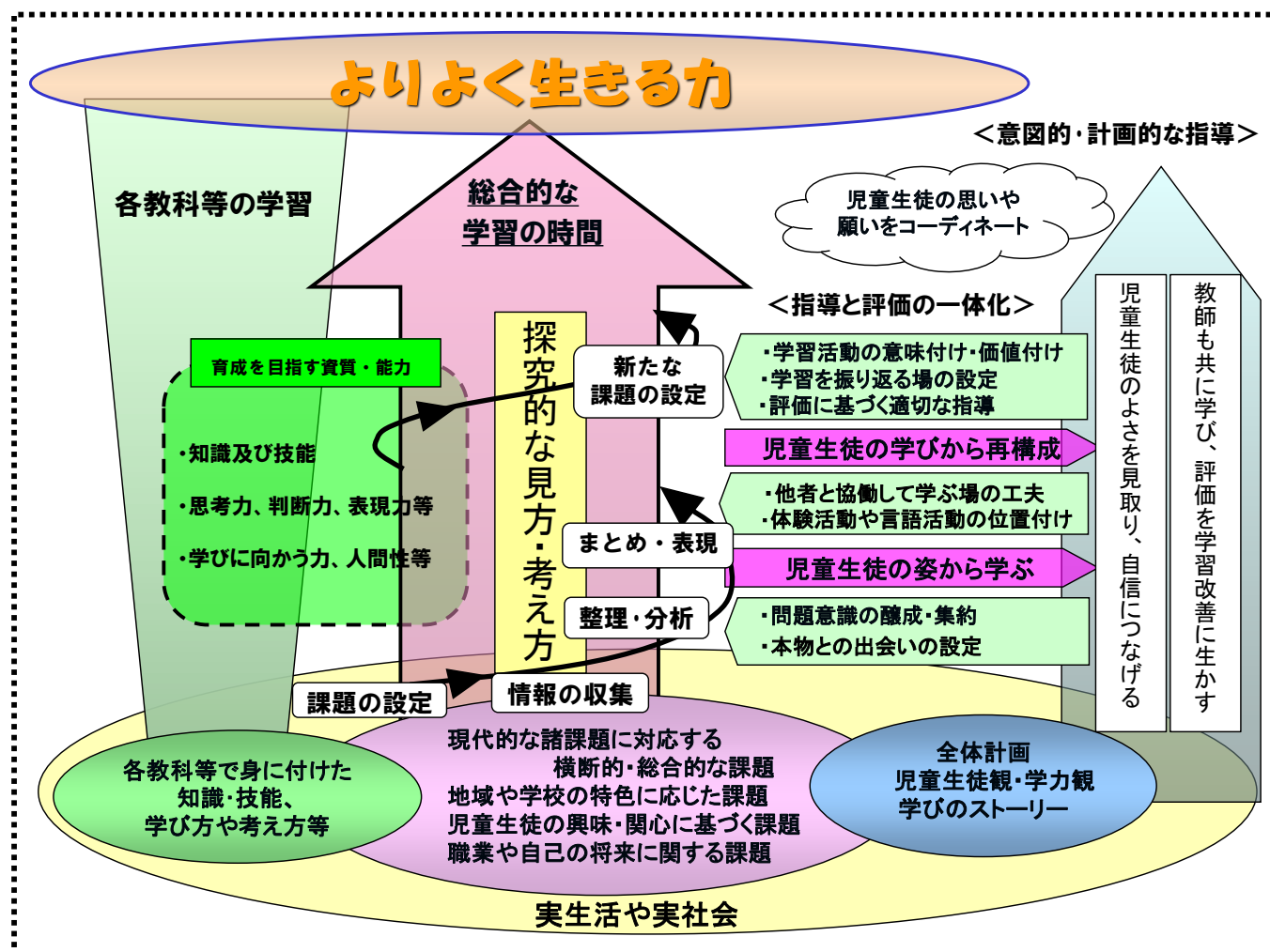
3 育成を目指す資質・能力を踏まえた評価の在り方

- (1) 学習を振り返り、自分にとって学ぶことの意味や価値を考える評価【E・N】
- (2) 具体的な姿を見取るにふさわしい評価規準の設定と評価方法や評価場面の適切な位置づけ【E】
- (3) 信頼される評価、多面的な評価、学習状況の過程の評価の工夫【E】

Ⅳ 留意事項

- 1 学習指導要領の趣旨や内容の理解を深める研修の充実
- 2 自校の教育目標を踏まえた全体計画、年間指導計画、単元計画及び評価計画の改善
- 3 多様な学習活動に対応するための学習環境の工夫
- 4 すべての教職員が一体となり、協力できる校内組織の整備
- 5 確実かつ柔軟な実施のための授業時数の確保と弾力的な運用
- 6 家庭や地域と連携・協働しながら取り組む外部連携の構築

＜「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメント＞



令和6年度に開催予定の研究大会

- 第22回愛媛県総合的な学習の時間教育研究会
8月6日(火) 東温市川内公民館
- 第33回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会全国大会 岩手・盛岡大会
11月7日(木)・8日(金) 岩手県
- 第33回日本生活科・総合的な学習教育学会全国大会 新潟大会
6月22日(土)・23日(日) 新潟県

Ⅱ 研究主題・研究のねらいの解説

愛媛県教育研究協議会 総合的な学習の時間研究委員会

研究部長 吉岡 舞

1 学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

2 改訂のポイント

- 総合的な学習の時間と各教科との相互の関わりを意識しながら、育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントが行われるようにすること
- 探究のプロセスを通じた一人一人の資質・能力の向上をより一層意識すること

3 研究主題

「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間の研究

—探究的な見方・考え方を働かせ、主体的・協働的で深い学びを求めて—

4 研究の視点

- (1) 探究的な見方・考え方を働かせるカリキュラム・マネジメントの在り方
 - ア 育成を目指す資質・能力の明確化
 - イ 目標を実現するにふさわしい探究課題の在り方
 - ウ 各教科等における見方・考え方を総合的に活用して課題を探究する学習過程
- (2) 主体的・協働的で深い学びを実現する指導の在り方
 - ア 探究的な学習の過程を質的に高める工夫
 - イ 他者と協働して課題を解決しようとする学習指導の工夫
 - ウ ICT機器や「考えるための技法」の効果的な活用
- (3) 育成を目指す資質・能力を踏まえた評価の在り方
 - ア 学習を振り返り、自分にとって学ぶことの意味や価値を考える評価
 - イ 具体的な姿を見取るにふさわしい評価規準の設定と評価方法や評価場面の適切な位置付け
 - ウ 信頼される評価、多面的な評価、学習状況の過程の評価の工夫

5 探究的な見方・考え方を働かせるカリキュラム・マネジメントの在り方

(1) 育成を目指す資質・能力の明確化

各学校における教育目標を踏まえて、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の「3つの柱」に即して具体的に示すこと。

(2) 目標を実現するにふさわしい探究課題の在り方

目標の実現に向けて学校として設定した、探究的な学習を進められる課題のことである。探究的な見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい課題であること。横断的・総合的な学習が展開される課題であること。よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことに結び付いていくような、資質・能力の育成が見込まれる課題であること。以上の3点を備えていることが求められる。例示されているものから、各学校の総合的な学習の時間の目標や、児童生徒、学校、地域の実態に応じて設定する。

【探究課題の例】

- ・横断的・総合的な課題
- ・児童生徒の興味・関心に基づく課題
- ・地域や学校の特色に応じた課題

〈 探究課題の例 〉

全体計画には、学校の教育目標を踏まえた総合的な学習の時間の目標があり、目標を実現するにふさわしい探究課題、育成を目指す資質・能力が示されることが必要である。また、それらの資質・能力が育成されているかを見取るための、評価規準も示される。

(3) 各教科等における見方・考え方を総合的に活用して課題を探究する学習過程

年間指導計画では、関連する各教科等の単元や学習活動、育成を目指す資質・能力とのつながりを明記することで、各教科等のそれぞれの単元における「習得」と「活用」を意識した学習活動を展開することができ、各教科等における見方・考え方を総合的に活用して課題を探究する学習過程を構想しやすくなる。

6 主体的・協働的で深い学びを実現する指導の在り方

(1) 探究的な学習の過程を質的に高める工夫

探究的な学習では、学習過程が課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現となることが重要である。そして、この一連の過程から、更に新たな考えや課題が生み出され、また一連の過程が繰り返され、高まっていく。この探究的な学習の過程を質的に高めるために、一つ一つのプロセスを大切にしていきたい。

「課題の設定」では、体験活動や人との出会い、ワークシートなどを活用した思考活動、学校行事などを通して、児童生徒が自分にとって価値のある課題を設定できることが重要である。設定した課題を基に、体験活動をしたり、見学や調査をしたりして情報を収集する。この際、タブレット型端末などのICT機器を活用することで、情報収集の方法の幅が広がる。インターネットで情報を検索したり、アンケート作成ツールを用いて多くの人から回答を得たりして、必要な情報を収集することができる。ま



〈 タブレット型端末の活用 〉

た、見学や調査したことをタブレット型端末に写真や動画で記録、保存することもできる。課題の解決に向けて見通しを持ち、適切な手段を選択し、各教科等で身に付けた資質・能力も発揮しながら、情報を収集することが大切である。

(2) 他者と協働して課題を解決しようとする学習指導の工夫

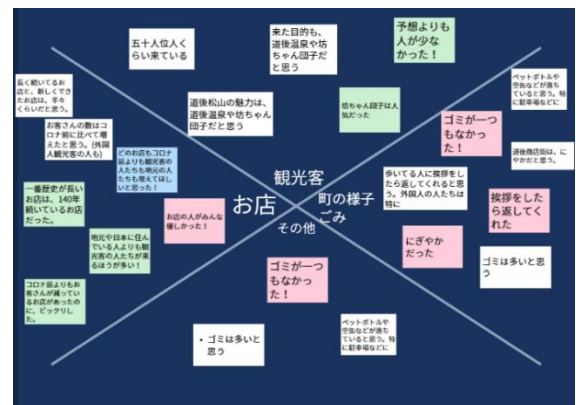
「情報の収集」や、次の過程である「整理・分析」の場面では、他者と協働して取り組むことで、学習が更に広がり、深まる。情報交換をすることで多様な情報が集まる。話し合い活動や意見交換では、異なる意見や考えに触れることで、各自の思考や理解が深まる。また、専門家、地域の方と協力し合ったり、交流したりすることで、課題の解決に近付くことができる。このように、対話を通して協働的に取り組む学習活動を工夫することで、探究的な学習の質が高まっていく。



〈 話し合い活動の様子 〉

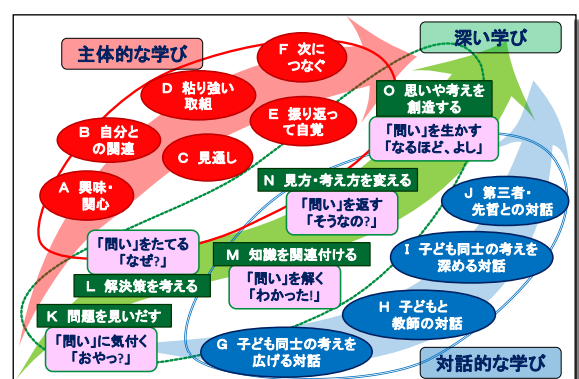
(3) ICT機器や「考えるための技法」の効果的な活用

多様な情報を、整理・分析して、思考する活動へとつなげていく。ここで、思考ツールの活用が効果的である。考えや意見を可視化し、関連付けて整理したり、比較したり序列化したりして、整理・分析する。これらを目的に応じて上手く活用することによって、「考えるための技法」が身に付き、他教科でも生かすことのできる汎用的な力になっていくことが期待できる。これらは、総合的な学習の時間だけでなく、全教育活動の中で習得していくことが大切である。



〈 思考ツールの活用 〉

整理・分析した情報を伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする活動が、「まとめ・表現」である。その方法には様々な活動が考えられる。ここでもICT機器の活用が有効である。プレゼンテーションや動画など、相手や目的に応じて表現方法を選択することもできる。また、ICTとアナログのベストミックスも大切である。「まとめ・表現」においては、相手意識や目的意識を明確にすること、自分の考えや新たな課題を自覚すること、目的に応じて表現方法を選択できること、他教科等で身に付けた方法を活用することを大切にしていきたいと考える。また、まとめたもの、表現したものを地域の方や専門家の方など第三者に見てもらうことで、学習意欲や学びの質が高まる。これによって、これまでの学習で身に付けた知識と情報がつながったり、一人一人の考えが明らかになったりして、新たな課題が生まれ、探究的な学習の過程が繰り返され、高まっていく。



〈 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業モデル 〉

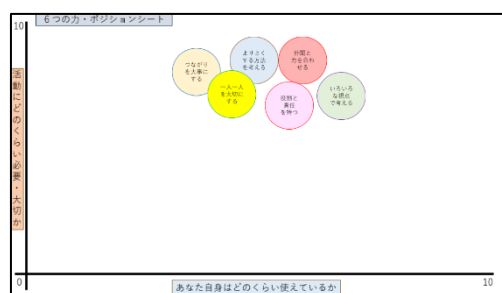
7 育成を目指す資質・能力を踏まえた評価の在り方

(1) 学習を振り返り、自分にとって学ぶことの意味や価値を考える評価

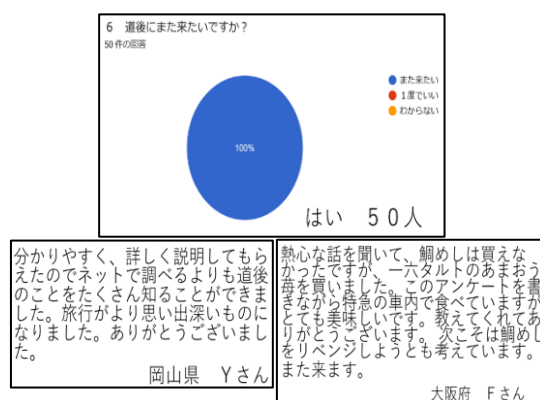
愛媛県教育研究協議会の授業モデルには、「振り返って自覚」という項目があり、学習したことを生きて働くようにするための振り返りについての具体的な方策が示されている。学びが自分自身やこれからの生き方にどうつながるのかを意識し、自分にとって学ぶことの意味や価値を考えるためには、これらの方策を用いて振り返りを行うことが効果的であると考えます。

(2) 具体的な姿を見取るにふさわしい評価規準の設定と評価方法や評価場面の適切な位置付け

自己評価の方法を工夫することで、学習を振り返り、学ぶことの意味や価値を考えることができる。また、学習を通して自分にどのような力が身に付いたのかを自覚したり、学んだことをこれからの生活にどのように生かしていきたいか考えたりすることもできる。ワークシートだけでなく、タブレット型端末のアンケート機能や座標軸の一部を使ったポジションシートなどICT機器を活用した評価も、見取ったことを蓄積したり、集計、分析したりすることができ、効果的である。自己評価に加えて、児童生徒が互いの学習状況を評価し合う相互評価、保護者や地域の方々による第三者評価など、多様な方法を組み合わせ、学習過程全般で評価を行うことが大切である。相互評価によって、協働的な学習や自分自身のよさ、自己の学びに気付くことができ、他者評価によって、学習してきたことへの充実感や達成感、喜びを味わうことができる。これらの評価を通して、社会参画への意欲や自分の成長への自覚が促され、児童生徒が自己の生き方を考えていくことにつながると考える。学習過程のどの場面で、誰が、どのような観点で評価をするのか、しっかりと検討することが必要である。



〈 座標軸の一部を使ったポジションシートによる自己評価 〉



〈 第三者評価（他者評価） 〉

(3) 信頼される評価、多面的な評価、学習状況の過程の評価の工夫

児童生徒の学習状況を的確に評価するためには、信頼される評価であること、多面的な評価であること、学習状況の過程の評価であることが重要である。どの教師も同じように判断できるように、評価の観点や評価規準を確認しておくこと、児童生徒の成長を多面的に捉えるため、多様な評価方法や評価者による評価を適切に組み合わせること、児童生徒の内に育まれるよい点や進歩の状況を積極的に評価することを大切に、指導に役立てていく評価について、研究を進めていきたいと考えています。

8 終わりに

総合的な学習の時間では、教師も、児童生徒と共に、体験したり考えたりして、学び、成長することができると考えている。これからも、「探究的な学習のよさ」を実感できる、「主体的・協働的で深い学び」を目指していきたい。

Ⅲ 実践発表

実践発表 1 小学校実践研究発表

探究的な見方・考え方を働かせる「しおご学習」を目指して

—単元の開発と指導方法の工夫—

愛南町立家串小学校 飯田 千歳

1 主題設定の理由

本校は愛南町の由良半島に位置し、豊かな自然環境に囲まれた全校児童 23 名の小規模校である。学校の教育目標は「ともに考え、認め、高め合う児童の育成」であり、前進・協働を合言葉として教職員児童共に活動している。「伸びる子優しい子明るい子」の育成に努めており、学びプロジェクト・ハートプロジェクト・しおごプロジェクトの三つを設定しているが、特にしおごプロジェクトでは家庭・地域との連携「家串ならでは」を継承するべく防災学習・海学習・俳句の活動に取り組んでいる。その中心となる総合的な学習の時間を、本校では「しおご学習」と呼んでいる。

本校では、総合的な学習の時間で育成する思考力・判断力・表現力を「問いの解決に向けて、調べて得た情報を基に考える力及び、根拠を明らかにして自分の考えをまとめ、表現することができる力」と設定し、児童の指導にあたってきた。しかし、学習活動において、次の二つの問題状況が見られた。一つ目は、集めた方法がどのような内容か、どのような意味を持つのか十分に理解できていないことである。二つ目は、課題の確認が不十分であり、課題の解決に必要な情報が何か、または適切な情報は何か判断できていないことである。以上のことから、ゴールを意識した単元を開発することや、指導方法を工夫することで、情報を整理・分析する力を育成することができると考え、本主題を設定した。

2 研究の内容

- (1) 目的や相手意識を明確にした単元の開発や単元構成の工夫
- (2) 情報を関連付け、焦点化し、考えをまとめ、表現することができる指導方法の工夫

3 研究の実際と考察

しおご学習は海学習・福祉学習・防災学習の三つのテーマで行っている。一年間を前期と後期に分け、前期は海学習に取り組んでいる。ふるさとの自然や、特に海に関心を持ちながら探究活動を行っている。

- (1) 令和 5 年度の取組「家串オーシャンビュー —みんなの海じまん—」

年度始めに、3 年生以上全員を対象として探求活動についてオリエンテーションを行い、総合的な学習の時間に身に付けるべき力を確認した。単元名を「家串オーシャンビュー —みんなの海じまん—」とし、単元のゴールを「交流している宇和島市立御楨小学校の友達に、家串の良いところ

を紹介しよう」とした。単元では「産業」「環境」「家串でとれる魚」の三つの小課題を立て、単元を通して協働的な学びを重視するため、グループでの探究活動を中心とした。それぞれ「家串の産業について調べよう」「家串でとれる魚について調べよう」「家串の海の環境について調べよう」である。家串小学校区は自然豊かで海の産業が盛んであり、地域の人々も学校に対して協力的であるため児童にとっては、たくさんの情報収集や活動をしやすい環境である。

ア 家串の産業について調べよう

真珠の母貝養殖をしている業者、鯛の養殖をしている水産会社、ダイビングショップを訪問し、インタビューや見学をして情報収集を行った。



〈 母貝養殖業者へインタビュー 〉 〈 鯛養殖会社の見学 〉 〈 ダイビングショップへインタビュー 〉

イ 家串でとれる魚について調べよう

実際に海で魚を釣ったり、地域の漁師の方に魚のさばき方を教えていただいたりした。また、カワハギ料理をしていただき味わうという活動もした。



〈 地元の海での魚釣り 〉



〈 魚をさばく体験 〉

ウ 家串の海の環境について調べよう

昔と今の家串では、環境に違いがあるかについて地域のお年寄りにお話を聞いたり、校区にある西の浜の海岸のごみ調査をしたりした。そこで集めたシーグラスなどを使って、シーボーンアートも体験した。インタビューや体験活動では、そこで得た情報だけでなく、体験時の感覚やその時の感情まで情報として扱うようにした。集めた情報は、デザインツール Canva を使い「家串の紹介動画」としてまとめ、御槇小学校の友達に見てもらおうこととした。



〈 地域の方へインタビュー 〉



〈 西の浜でゴミ調べ 〉



〈 シーボーンアート体験 〉

令和5年度の成果としては、探究の過程をどの児童も理解することができたことである。見学や体験を通して、「ふるさと大好き」という気持ちが高まり、Canvaを活用したことで、ICTを使った活動に取り組もうという意欲も高まった。課題としては集めた情報をただ羅列しただけで、各自が思ったことを述べるにとどまり、グループとしての考えをまとめられなかったことである。情報の整理・分析の過程をもっと丁寧に扱い、整理・分析がうまくできるような指導の方法を工夫する必要があった。

(2) 令和6年度取組「内海シーランド ―内海中学校から家串小学校へ―」

本校と同じく、長い間海学習に取り組んでいた、近隣の内海中学校が令和5年度閉校になった。これまでに中学校で行われてきた学習内容やその成果、データや資料、先輩方の気持ちを受け継いで「内海シーランド ―内海中学校から家串小学校へ―」という単元を設定した。単元のゴールを「内海中学校卒業生の皆さんに、私たちの海学習を見てもらおう」とし、「内海の生き物名人になろう」「内海の美しい海を守ろう」「内海の海で遊ぼう」の三つを小課題とした。

ア 内海の生き物名人になろう

西の浜での生き物調査では、内海中学校の海学習にも関わっていた黒潮生物研究所から先生を招いて、自分たちが見つけた生き物について詳しく教えていただいた。また、地域の方からは内海で撮影した写真をもとにいろいろな生き物についてお話しいただいた。



〈 黒潮生物研究所の先生と西の浜調査 〉

イ 内海の美しい海を守ろう

海辺のごみやそれにまつわる取組のお話をたくさん聞き、それをもとにインターネットや Web サイトを使って一般的な情報も収集した。



〈 海的环境について学ぶ 〉

ウ 内海の海で遊ぼう

内海中学校では、家串沖にあるしおご島周りの海洋調査を継続してきたが、しおご島までの交通手段海としてシーカヤックを使っていた。発達段階を考えて、小学校ではシーカヤックに乗るなど、海と触れ合う経験を重ね、これからの学習展開を模索していきたい。

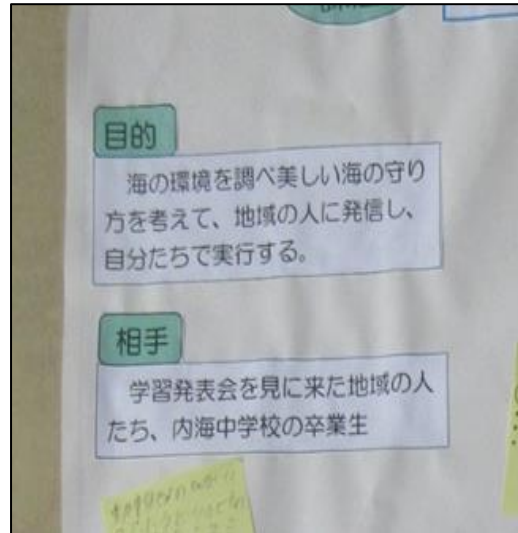
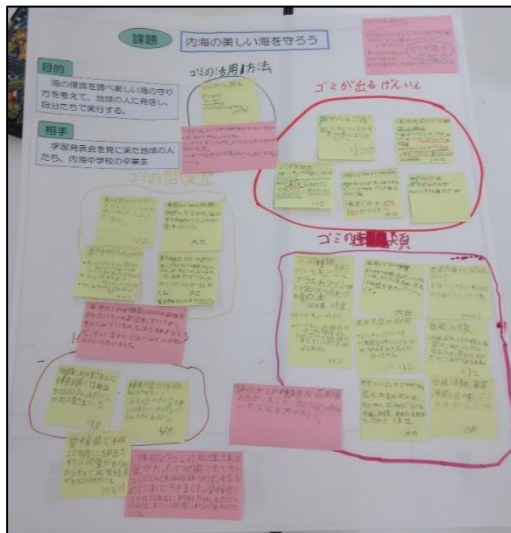


〈 シーカヤック体験 〉

エ 「情報選択シート」

体験や調査活動を終え集まった多くの情報を整理・分析し、まとめていく過程で「何のためにこれらの情報を整理・分析するのか（目的意識）」「誰に聞いてもらうためにこれらの情報を使うのか（相手意識）」を念頭に置いて、随時課題に立ち寄り必要な情報を選んでいるか確認した。

「情報選択シート」を使い、グループで話し合いをしながら考えをまとめることにした。シートの左上に目的や伝える相手を提示した。中段には、集めた情報を書き出し、思考ツールを使って関連付けや焦点化を行った。下段には、グループの主張とその根拠となる情報、その情報を選んだ理由を書き出すようにした。このように、学習活動の過程を俯瞰できるようにすることで課題の解決に必要な情報の取捨選択することができた。



〈 情報選択シート 〉

4 成果

- (1) 目的や相手を明確にした単元の開発ができた。単元構成の工夫について、情報収集の過程では地域との連携が十分に図れている素地を生かし、体験中心の情報収集活動を行ったことで、探究の過程を理解することができた。また、地域の「人・もの・こと」に触れ、ふるさとを大切にしようとする気持ちが高まった。
- (2) 整理・分析の過程で、目的意識と相手意識を常に持って活動することができた。情報選択シートを使って、整理・分析の過程を俯瞰できるようにすることで、課題の解決に必要な情報の取捨選択をスムーズに行うことができた。



ふるさとを愛する心を育む総合的な学習の時間

～ふだんのくらしの幸せ～



今治市立大島中学校 山田 ゆかり



大島地区の概要 (吉海町・宮窪町)

芸予諸島に属するしまなみ海道1つ目の大きな島
面積: 41.89km² (今治市: 419.21km²) ※国土地理院
おもな産業: 造船、石材、農業、水産業
人口 5,783人 (吉海町3,192人 宮窪町2,591人)
2,906世帯
高齢化率 約47% (令和4年3月31日現在)
小学校: 吉海小学校、宮窪小学校
中学校: 大島中学校 (平成27年4月1日より)
生徒数81名
※3校すべての福祉学習を、社協と一緒に取り組んでいる

～令和3年度～
今治市社会福祉協議会と連携し、モデル事業を展開することとなる



【目標】

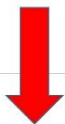
①学校・社協・住民等がつながる福祉学習(教育)の推進
→地域住民の福祉の心を育て、地域福祉活動への参加を目指す。

②県域の福祉学習推進拠点としてのあり方を検討
→学校・教育委員会と市町社協・地域との連携を推進する。

仮説

郷土愛を育てることが福祉観の醸成につながるのではないかな

事業展開の方法



今治市社会福祉協議会、地域、学校が連携し、一体となって地域福祉活動に取り組む



○地域とのワークショップ

日時 : 令和3年12月10日(金)
13:30～16:30
会場 : 吉海学習交流館
参加者数: 37名
参加者 : 学校関係者、市役所支所、自治会、老人クラブ、民生委員、福祉学習関係者、地域住民(多世代)、保護者など
内容: 趣旨説明、講義、グループワーク意見交換など
協力: 愛媛県福祉教育プロジェクト委員会
アドバイザー 新見立大学 教授 高杉 公人 氏




『大島についてどのようなことを生徒達に学んでほしいか』

地域の方の願い



- ・小さなことでも地域のために役に立ちたい
- ・子ども達に大島は本当に良いところだと伝えたい
- ・この大島に住んでいる私たちは幸せだと知ってもらいたい
- ・この福祉学習で学んだことをずっと覚えておいてほしい
- ・先人達が残してきたこの島の文化や伝統をこの先も継承してほしい

[illegible]

「郷土愛」めざす生徒像

自分のふるさとが好き
ふるさとにいるひとが好き
自分が好き



第Ⅰ部 郷土愛を育む

- ①福祉学習のガイダンス
- ②大島の魅力（調べ学習）
- ③大島の魅力と名人めぐり（大島の魅力を再発見）
- ④大島魅力発信プロジェクト（ワークショップ）
- ⑤我が町「大島」について、大島の名人と語ろう！

愛媛県漁業協同組合
鴻浦支所

亀老山展望公園

福蔵寺(島四国)

①郷土愛を育む **大島の魅力を発信する**

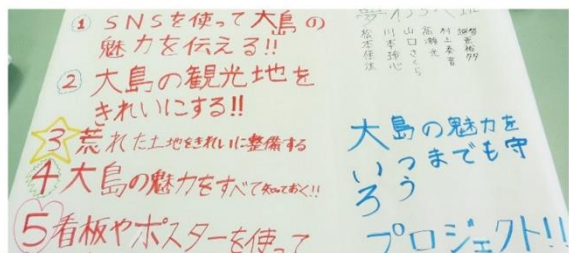
大島の魅力発信プロジェクト(ワークショップ)



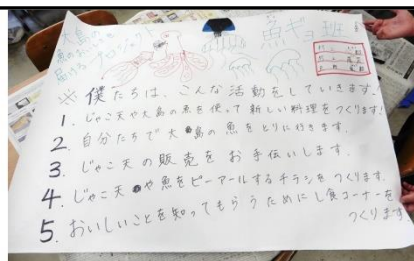
- 大島の魅力を伝える
- 地域の方と大島の活性化について話し合う



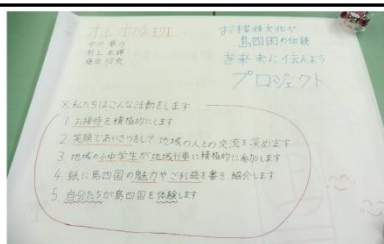
「魅力発信プロジェクト」企画会議



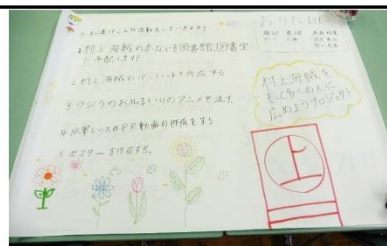
大島の魅力発信プロジェクト(観光資源)
～大島の魅力をいつまでも守ろうプロジェクト～



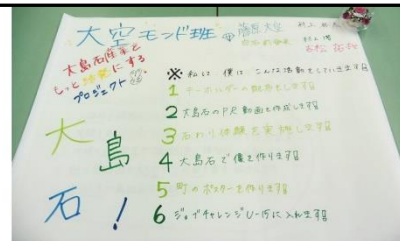
大島の魅力発信プロジェクト(食)
～大島の魚のおいしさを届けるプロジェクト～



大島の魅力発信プロジェクト(歴史)
～お接待文化や島四国の伝統を未来に伝えようプロジェクト～



大島の魅力発信プロジェクト(歴史)
～村上海賊をもっと多くの人に広めようプロジェクト～



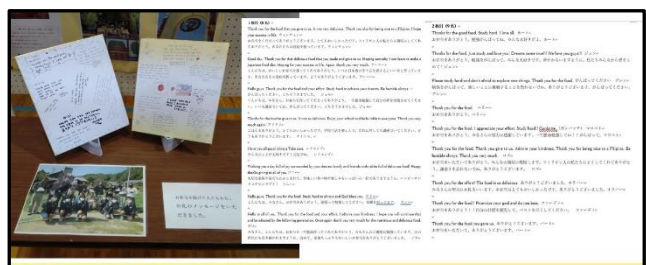
大島の魅力発信プロジェクト(産業)
～大島石産業をもっと活発にするプロジェクト～



自分たちが考えた「魅力発信」をカタチに



～大島の魅力プロジェクト その1～
大島のおいしい食材を使ったお弁当で外国人の方と笑顔で交流
【住民同士の交流のきっかけづくり&食文化交流】



～大島の魅力プロジェクト その1～
大島のおいしい食材を使ったお弁当で外国人の方と笑顔で交流
【住民同士の交流のきっかけづくり&食文化交流】



～大島の魅力プロジェクト その2～
亀老山清掃作戦!来てよかったと思ってもらえる場所に
【美化活動・地域資源の保全活動】



～大島の魅力プロジェクト プロジェクト その3～
高齢者サロン交流と傾聴ボランティア
【地域福祉活動の活性化、高齢者のいきがいづくり】



～大島の魅力プロジェクト その4～
多世代交流とボッチャ体験
【多世代交流のきっかけづくりと中学生が行う福祉共育】

「福祉」めざす生徒像

ふだんの
くらしの
しあわせ



第2部 “福祉の心”を醸成する

「ふだんのくらしの幸せ」をテーマとした

- ①地域に暮らす人との交流ワーク①
- ②地域に暮らす人との交流ワーク②
- ③地域に暮らす人との交流ワーク③
- ④地域に暮らす人との体験ワーク
- ⑤大島町づくり計画

②福祉の心を育む ふだんのくらしの幸せ

「ふだんのくらしの幸せ」について考える

- ➡ ○ 交流ワーク
- 体験ワーク





「ふだんのくらしのしあわせ」(交流ワーク)

高齢者、障がい者、子育て中のお母さん、外国人技能実習生、移住者と考える「ふだんのくらしのしあわせ」



「ふだんのくらしのしあわせ」(体験ワーク)

ボッチャ体験や妊婦・子育て体験、外国人との交流から考える「ふだんのくらしのしあわせ」

②福祉の心を育む 福祉の心でまちづくり計画

福祉学習 まとめ

大島のまちづくりを計画し、
「ふだんのくらしを幸せ」を
具現化する



“福祉の心”でまちづくり計画

これまでの授業で学んだことを生かしながら、地域住民と中学生がともに意見を出し合い、「誰もがふだんのくらしを幸せに感じることができる」大島のまちづくりについて考える。
⇒自分たちに今できることを実践する

生徒の感想

僕たちは大島に住んでいるいろいろな方にインタビューをし、ワークショップに参加してもらい、今の大島を見つめました。
また、バラスポーツやボランティア活動と一緒に、たくさんの方に喜んでもらい、嬉しかったです。福祉は、「自分と周りの人を幸せにする行動」つまり、「ふだんのくらしのしあわせ」という意味が改めてわかりました。
僕たちの総合学習のために、社会福祉協議会の横田さん、矢野さん、そしてたくさんの方々が協力してくださりました。自分たちはこの大島の人達に支えられているのだということを実感しました。本当にありがとうございました。
大島の未来のため、誰もが「大島に住んでよかった」と思えるために、自分たちができることに取り組んでいきたいです。



R5年度までの福祉学習の成果

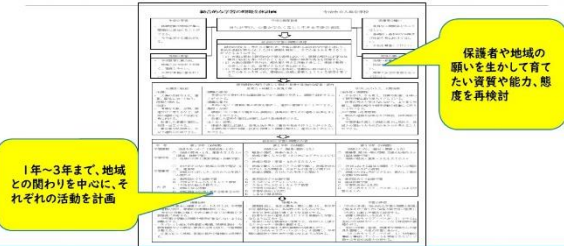
- ・地域との協働的な福祉学習の体制づくり
- ・郷土愛が高まり、主体的に活動ができるようになった

R5年度までの福祉学習の課題

- ・体験活動の精選
- ・郷土愛を重視した活動の偏り

令和6年度の方針

総合的な学習の時間全体計画の見直し(R5・8月)



島内の小学校2校と中学校の、教頭・総合的な学習の時間の主任・教務主任による地域活動の見直し(R6・2月)



1年部、2年部、3年部の学年主任による「総合的な学習の時間」活動内容の見直し(R6・3月)

社会福祉協議会吉海地区担当者、宮窪支部担当者、学年主任、総合的な学習の時間主任による福祉学習打ち合わせ会(R6・4月)

【昨年度までの課題】

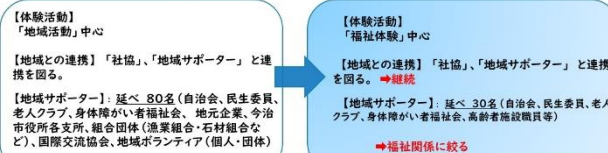
【改善策】

- ・地域人材との協力方法
- ・体験活動の精選
- ・郷土愛を重視した活動の偏り

- ・活動時期、体験内容の見直し
- ・地域人材活用の焦点化
- ・郷土愛重視から福祉観重視へ
高齢者、障がい者の理解・技能の習得を中心とした「福祉体験」

福祉の心を育む(郷土を愛し、郷土の人を愛し、ともに生きる)

福祉体験学習



3年生の活動では



福祉の心を育む(郷土を愛し、郷土の人を愛し、ともに生きる)

福祉学習



郷土愛を育む(地域を知り、地域を愛し、地域から学ぼう)

島四国へんろ市

活動時間はそのまま、日程や行程を再検討



1年生の活動では

パラの挿し木体験

オリーブの挿し木体験

中止

継続

大島が活性化に向けて栽培を進めているオリーブの挿し木体験のみ実施するよう変更

1年生の活動では

アマモの採取体験

新規

夏休みにボランティアで種取りに参加

CO₂削減や海を豊かにする海藻「アマモ」を育てる活動を新たに追加する

アマモを守る～

今治市が地域団体と連携して取り組んでいる環境保全事業なので来年度以降も系統的な活動としてさらに発展させたい。

広報今治「いまばり」2024・8月号より抜粋

「1学期の福祉学習を終えて」

生徒のアンケートより (R6・7月実施)

福祉体験学習が自分の住む大島について関心を持つことにつながった

26件の回答

34.6%

65.4%

とてもつながった

まあまあつながった

あまりつながらなかった

まったくつながらなかった

地域の方とのワークショップを通して、大島の課題や良さを再発見することができましたか

26件の回答

30.8%

69.2%

とてもできた

まあまあできた

あまりできなかった

まったくできなかった

福祉体験学習で将来、特に生かしていけそうな体験を次から2つ選びなさい。

26件の回答

地域の方とのワークショップ 0 (0%)

高齢者疑似体験 11 (42.3%)

阿育苑の方の認知症や高齢者... 4 (15.4%)

車椅子の操作、介助 12 (46.2%)

視覚障がい者、盲導犬への理解 8 (30.8%)

聴覚障がい者理解 4 (15.4%)

車椅子生活者への理解 5 (19.2%)

地域防災 17 (65.4%)

地域の方と考える暮らしやす... 2 (7.7%)

ボランティア活動の感想 R6・7月

高齢者介護施設ボランティア

アマモ種取りボランティア

私が阿育苑のボランティアに参加しようと思ったのは福祉学習で学んだことを地域のために生かしてみたいと考えたからです。車椅子の介助は、福祉学習で体験した時より、難しかったです。私が介助したお年寄りは耳が遠かったので、耳元で大きい声で声掛けしながら車椅子の操作をしました。高校生になっても、機会があれば、また参加したいと思います。

アマモは空気中のCO₂削減や海を豊かにしてくれると知りました。しかし、大島の幸港では冬場にアマモが枯れていることが分かり、守っていく必要があると気づきました。私たちがたった種からまたアマモが繁殖し、どんどん増えてくれたらうれしいです。活動に参加し、大島だけでなく、今治市全体の海がきれいになり、未来につなげていきたいという気持ちになりました。

「ふるさとを愛する心を育む福祉学習」

今後の展望

さらに深化・発展を目指すために

福祉学習で福祉コミュニティづくり



福祉コミュニティづくりには、地域住民の参加が不可欠です。地域住民の参加が、地域を活性化し、福祉コミュニティを創出します。

高村さんたちと大島市立大島中学校福祉学習部員たち

大島地区の課題

- ①「地域のつながりの希薄化」
- ②「若年層と高齢層の交流機会の減少」
- ③「若者への地域の伝統文化の継承・地域貢献」

- ①学校を拠点とした福祉コミュニティの創造
- ②子どもを「発信者」「キーパーソン」とした世代間のつながりの機会の創出
- ③地域の伝統文化の継承・地域貢献のきっかけづくり

①学校（教育）を拠点とした福祉コミュニティの創造

保育所・小・中・行政・地域合同防災訓練、災害支援募金活動

②子どもを「発信者」「キーパーソン」とした世代間のつながりの機会の創出

地域交流会ボランティア、高齢者施設ボランティア

③地域の伝統文化の継承・地域貢献のきっかけづくり

しまなみサイクリングボランティア、水軍レース

「総合的な学習の時間」以外にも福祉コミュニティを担う人材を育てる

大島で多くの 人 に支えられながら



ふるさととの「ふだんのくらしのしあわせ」のために



自分のふるさとが好き
ふるさとにいるひとが好き
自分が好き



IV 講演要旨

学習指導要領に込められた願いとは

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 長田 徹

- 初めて、小・中・高の学習指導要領に前文が付け加えられた。児童生徒が社会的変化を乗り越え、社会の創り手となるために定められた。
- 「Ⅰ型…マニュアルがあつてルーティンがある職業」は建設、土木、配送員など日本の労働人口の44%。「Ⅱ型…ルーティンがあるが分析が必要な職業」は事務員、会計員、販売員など34%。「Ⅲ型…ノンルーティンで分析的な仕事」は教師、医師、技術職、専門職など16%。「Ⅳ型…マニュアルがあるがノンルーティン」は警察官、自衛官、消防隊員など6%。これからの社会で求められる資質・能力は「Ⅲ型」の創造的で分析的な力、つまり探究していく力である。
- 総合的な学習の時間の探究の過程（実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現すること）の中で汎用的な能力を児童生徒に身に付けさせることが必要である。
- 総合的な学習の時間では、「問い」と「課題」を使い分けている。課題を立てるまでのプロセスは、まず具体的な現状を把握し、達成の検証が可能な目標を設定する。その上で、現状と目標との「差（問い＝問題）」に注目する。その問題を解決する手立て・方策が「課題」である。総合的な学習の時間では、どのような取組をしているか（How）も大切であるが、なぜこのテーマを設けたのか、なぜこの問いがあるのかという現状（Why）にも着目しなければならない。
- 「整理・分析」の方法としてベン図やフィッシュボーンなどの思考ツールがある。思考ツールを使うと、考えを見える化することができる。考え（アイデア）を図や線が導くこともある。書く、話す活動を通じて考えをまとめることを「思考」という。思考ツールは「思考」を促したり、導いたりするツール（道具）である。道具を使うことは「手段」である。多くのツールを目的によって使い分ける。
- 目標設定をするときには、子どもが自己評価するときのことを先に考える。その目標の主語を変えて、語尾を変えたらそのまま子どもに質問することができるものにする。例えば「あなたは人や社会とつながり続けることができる」なら「あなたは人や社会とつながり続けることができますか」となる。その際、ダブルミーニング・ダブルバーレルの目標にならないようにする。

令和6年度 総合的な学習の時間 各支部役員

支部名	委員長氏名	勤 務 校
四国中央	長野 梨代	四国中央市立金生第二小学校
新居浜	白川 淳子	新居浜市立東中学校
西条	杉野 恭子	西条市立西条西中学校
今治・越智	西部 文子	今治市立立花小学校
松山	山本 将史	松山市立勝山中学校
東温	中川 貴善	東温市立南吉井小学校
伊予	神野 佳菜子	砥部町立砥部小学校
上浮穴	日野 裕太	久万高原町立面河小学校
大洲	宮田 美佳	大洲市立久米小学校
喜多	西 千恵美	内子町立五十崎小学校
八幡浜	藤田 京介	八幡浜市立真穴小学校
西宇和	得能 明美	伊方町立伊方中学校
西予	奥野 朋美	西予市立三瓶中学校
宇和島	毛利 弥栄	宇和島市立玉津小学校
北宇和	森竹 奈三枝	松野町立松野西小学校
南宇和	梶原 隆志	愛南町立城辺中学校
附属	吉岡 舞	愛媛大学教育学部附属小学校

令和6年度 教科等・専門研究委員会役員名簿

	氏 名	職名	勤 務 校
委員長	佐藤 郁子	校長	松山市立道後小学校
副委員長	三浦 克文	校長	宇和島市立明倫小学校
	野間 宏美	校長	今治市立桜井小学校
	松本 謙一	教頭	伊予市立由並小学校
事務局	重見 将史	主幹教諭	松山市立雄新中学校
研究部長	吉岡 舞	教諭	愛媛大学教育学部附属小学校
事業部長	森貞 邦宏	教諭	松山市立拓南中学校
編集部長	池田 麻理奈	教諭	松山市立浮穴小学校
研究部	佐藤 守	教諭	松山市立椿小学校
	玉井 歩美	教諭	松山市立石井北小学校
	中野 慎也	教諭	松山市立久米小学校
	井手内 遼汰	教諭	松山市立北久米小学校
事業部	灘野 裕子	教諭	松山市立久谷中学校
	飯田 将史	教諭	宇和島市立三間小学校
	村上 大和	教諭	今治市立桜井小学校
	本山 泰資	教諭	松山市立窪田小学校
	豊島 有希	教諭	松山市立道後小学校
	池内 浩平	教諭	東温市立重信中学校
	菊池 昌登	教諭	東温市立北吉井小学校
	中川 貴善	教諭	東温市立南吉井小学校
編集部	山崎 香苗	教諭	松山市立垣生小学校
	原 奈緒子	教諭	松山市立久米中学校
	新家 実沙	教諭	松山市立石井小学校

編 集 後 記

「総合的な学習の時間教育研究集録」は、今回で第 22 集となります。

今年度もそれぞれの学校で試行錯誤しながら、地域や学校の特色、児童の実態に応じたカリキュラムを編成し、実践されてきたことと思います。各学校の実践から、人、こと、ものとのつながりを大切にした教育活動が行われていることを感じました。

今年度も、先生方の御尽力により、貴重な研究発表及び実践研究報告を掲載することができました。御寄稿くださった先生方に深く感謝申し上げます。

私たち総合的な学習の時間研究委員会は、今後も、更に探究的な学習や子どもたちの豊かな学びの姿を創造し、よりよい総合的な学習の時間の在り方を先生方と共に研究し続けていきたいと考えています。先生方におかれましては、本誌をお読みいただき、御意見や御要望がありましたら、是非、総合的な学習の時間研究委員会までお寄せください。

最後になりましたが、ご多用の折にも関わらず、快く講演をお引き受けいただきました文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官、国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 長田徹先生、貴重な実践を発表していただきました愛南町立大串小学校の飯田千歳先生、今治市立大島中学校の山田ゆかり先生に心よりお礼申し上げます。

令和 7 年 2 月

愛媛県教育研究協議会 総合的な学習の時間研究委員会 編集部一同

令和 6 年度
総合的な学習の時間教育研究集録
第 22 集

発行日 令和 7 年 2 月
発行所 愛媛県教育研究協議会 総合的な学習の時間研究委員会